



## 記

今回は12月なので、クリスマス定番のバレエの一つチャイコフスキー作曲の「くるみ割り人形」に致します。日本では2005年12月フェスティバルホールでK-BALLETCOMPANY 熊川哲也の「くるみ割り人形」が演じられましたが、今回は英国ロイヤルバレエ団2009年12月 コヴェントガーデン王立歌劇場で、演じられたものを致します。このバレエ団には熊川以来、日本出身のダンサーたちが活躍し、この回も吉田都の他ローザヌ国際コンクールを経た素敵な5人が舞台に出ています。しかしずっとプリンシパルを続けていた吉田都がこのシーズン末を以て、同団を退団することになっていた為に一種独特の彼女を惜しむ雰囲気会場に溢れています。くるみ割り人形のストーリーは原作ホフマンですが、それほど面白くありません。演出も異なり、メインのバレエも1892年にロシア、マリンスキー劇場で初演された際にも「プリマの登場まで散々待たされ、たった一曲！」と批評家の不評を買いましたが、待たされただけの甲斐があるのが、この舞台。二幕お菓子の国の王子との吉田都の踊りの素晴らしさは圧倒される優雅さと美しさです。引退直前の舞台ということで、購入したものの、少し見ただけでお蔵入りにしていた dvd ですが、折角12月なので、今しか無いからと腰を入れて再鑑賞して見た時、これはこれは！と讃嘆の夢の中でした。即、これだ！と決定した次第。どうぞお楽しみください。

青戸

## 以上

